

2020年10月21日

オンライン診療・オンライン服薬指導の 普及促進について

全国で4,500を超える医療機関へ導入されているオンライン診療サービス事業者として、現場からの視点を共有させていただく

オンライン診療サービス

curon(クロン)の導入医療機関数は

全国4,500施設以上。

多くの方に利用される 安心のサービスです。

4,500 施設



※2020年9月現在



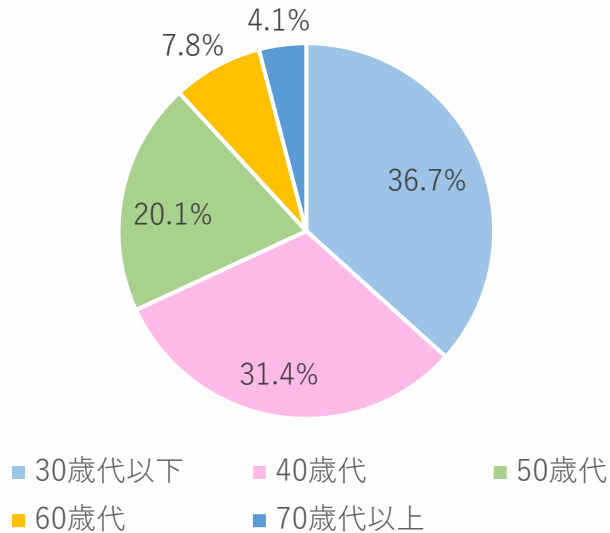
オンライン診療利用患者への調査結果からの示唆

- i** オンライン診療を実際に利用した患者は、概ねオンライン診療の診察・治療への安心感や、医師とのコミュニケーションの円滑さに満足している
- ii** オンライン診療の利用継続意向は高いが、最大の課題は費用負担増であり、対面診療とオンライン診療の診療報酬の差分が患者への自己負担として転嫁されている可能性が示唆される
- iii** 以前も受診したことがある医療機関をオンラインで受診した患者が8割近くを占め、現状では、かかりつけ医におけるオンライン診療が医師患者ともに求められているのではないかと示唆される

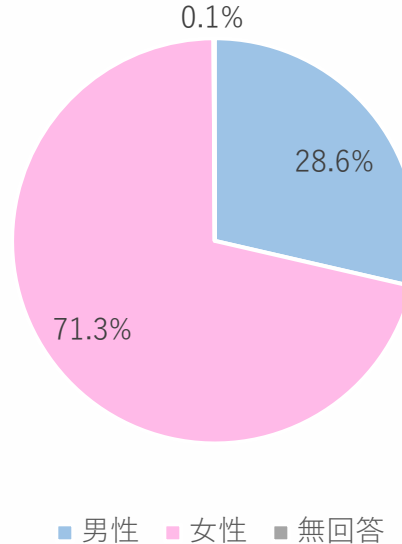
オンライン診療を実施した患者を対象とした調査概要

- 調査実施主体：株式会社MICIN（マイシン）
- 調査手法：Web調査
- 調査対象：オンライン診療サービス「クロン」を利用して2020年3月～6月の間に1回以上決済を実施した患者
- 調査地域：全国
- 調査期間：2020年7月29日～8月2日
- 有効回答数：837名
- 回答者内訳：

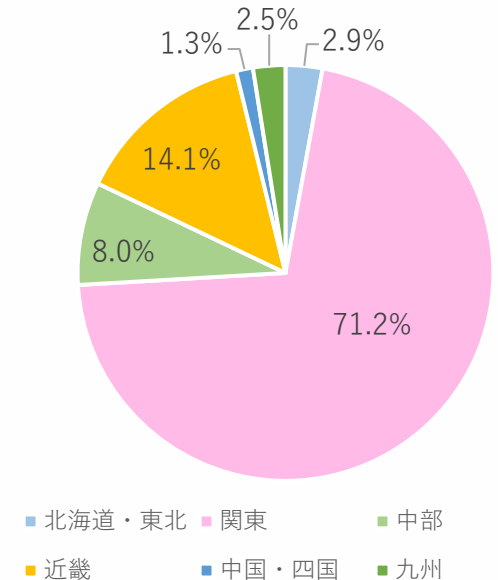
年代



性別



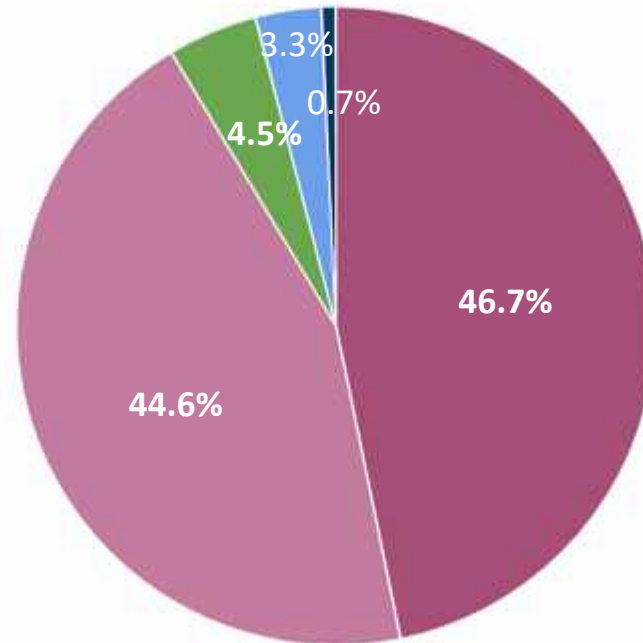
地域



- i オンライン診療での診察・治療には、とても安心して受診できた、まあ安心して受診できたと回答する患者が全体の9割以上を占めた

Q13.ここからは、直近オンライン診療を受診した時のことを教えてください。オンライン診療で、診察・治療が安心して受けられましたか？（単一選択）

とても安心して受診できた まあ安心して受診できた どちらともいえない やや不安が残った とても不安が残った

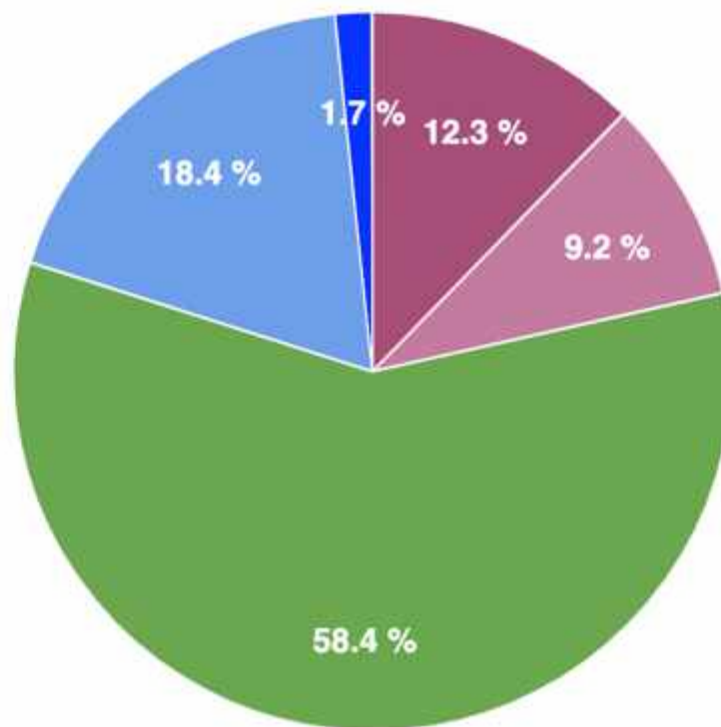


(n=837)

- i オンライン診療時、対面と同等あるいはそれ以上に医師と相談しやすいと感じている患者が8割ほどを占めた

Q14. 対面診療と比較して、オンライン診療のほうが医師に相談しやすいですか？（単一選択）

■ とても相談しやすい ■ やや相談しやすい ■ 対面診療と変わらない ■ やや相談しづらい ■ とても相談しづらい ■ 無回答

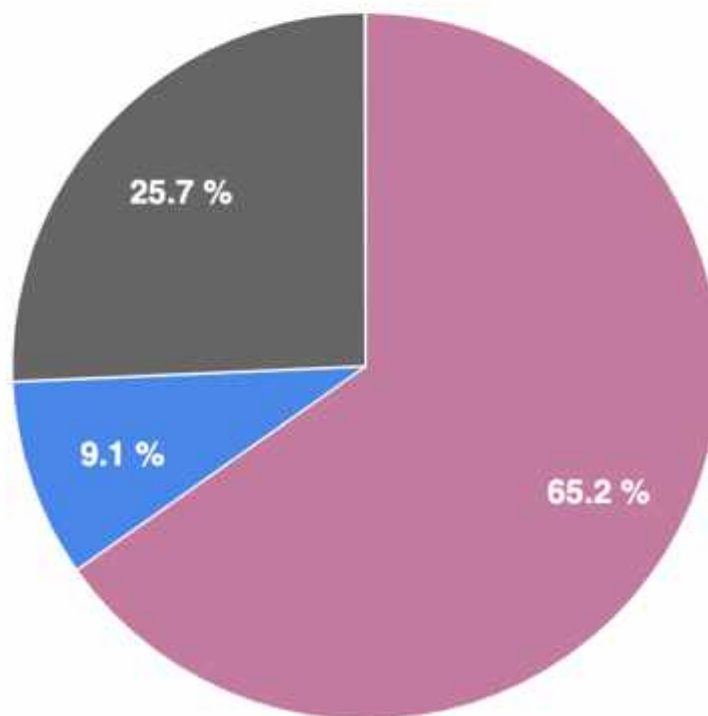


(n=837)

ii 新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後、65.2%がオンライン診療の継続を希望しており、継続を希望しない人は1割未満

Q21.直近オンラインで受診した疾患について、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後もオンライン診療の利用を継続したいと思いますか。（単一選択）

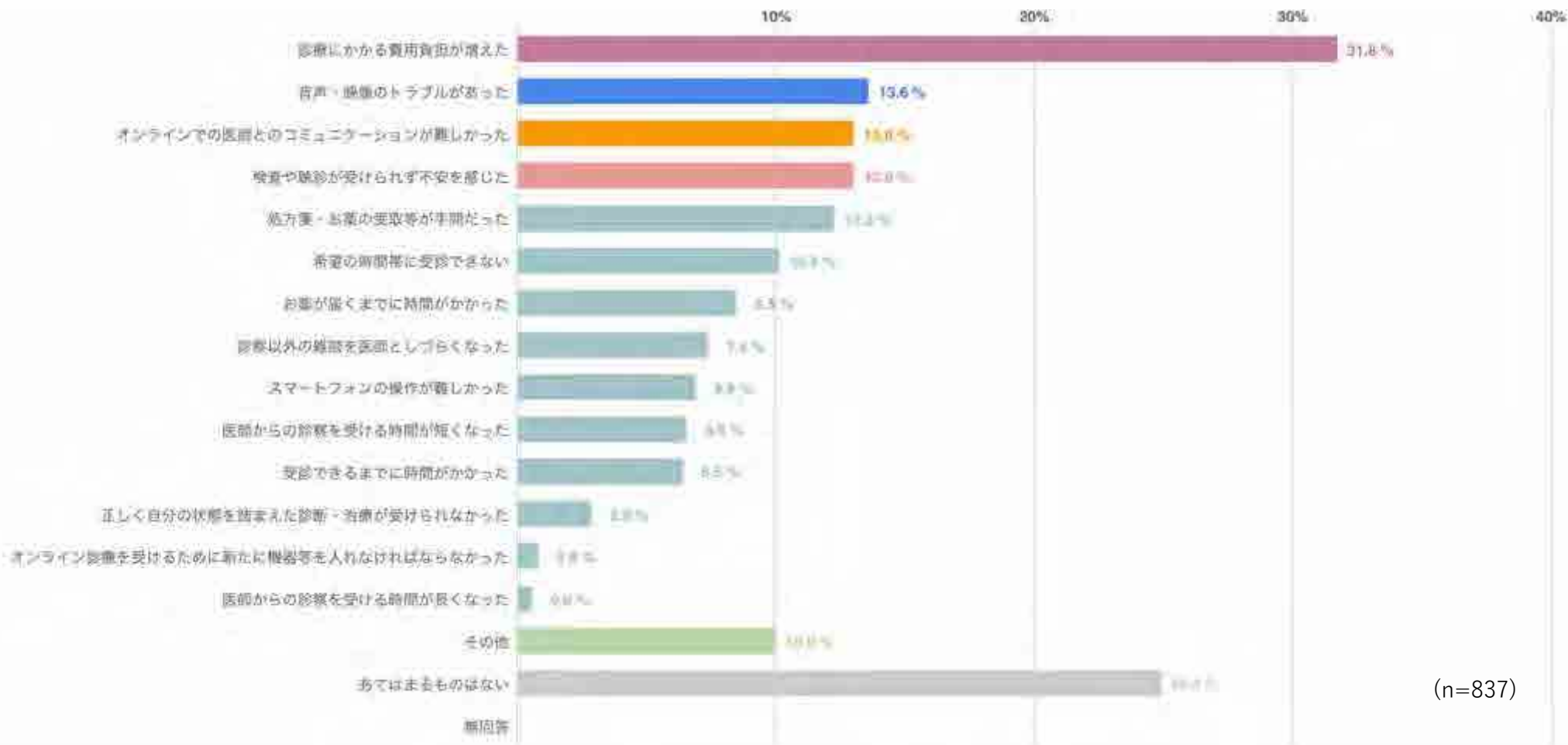
はい いいえ どちらともいえない 無回答



(n=837)

ii オンライン診療を受けて患者が感じた問題点として、診療にかかる費用負担が増えた、が最も多く挙げられた

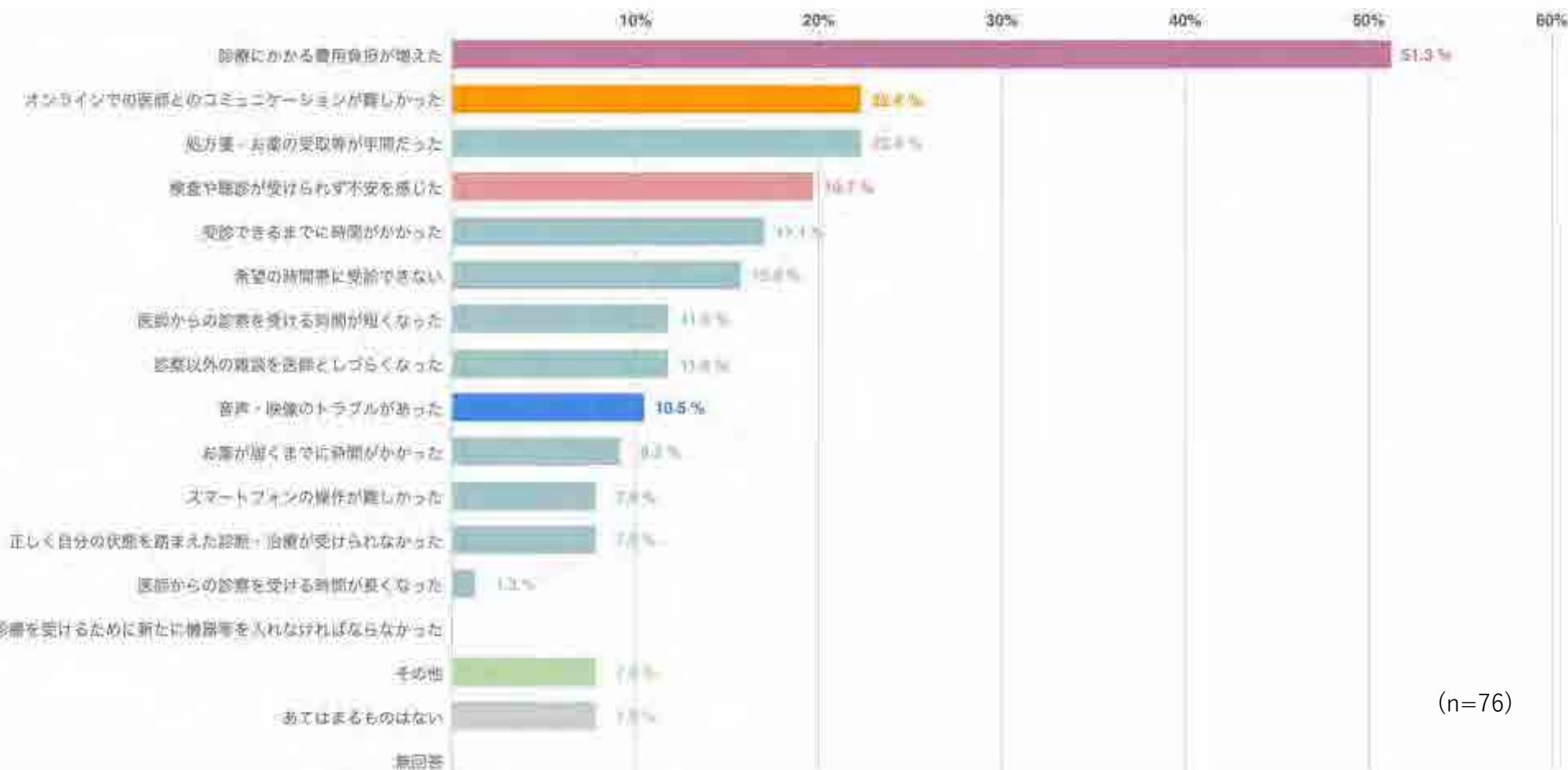
Q16.対面診療と比較して感じた、オンライン診療のデメリットを教えてください。(上位5つまで/複数選択)



(n=837)

ii さらに、オンライン診療の利用継続意向がない患者においては、半数以上が費用負担をオンライン診療のデメリットと答えている

Q16.対面診療と比較して感じた、オンライン診療のデメリットを教えてください。（上位5つまで/複数選択）
 * Q21でオンライン診療の今後の利用継続意向について「いいえ」と回答した人に絞り集計



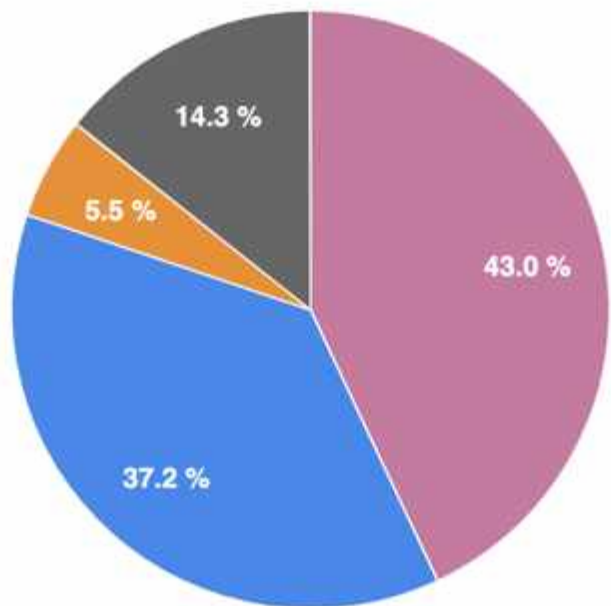
(n=76)

ii 保険診療・自費診療によらず、対面診療と比べてオンライン診療で支払う金額が増加したと答える患者が43%程度であった

Q19.対面診療と比較して、医療機関（クリニック・病院）に支払う金額は変化しましたか？（単一選択）
Q7.受診した診療は保険診療でしたか？保険診療以外（自由診療）でしたか？（単一選択）

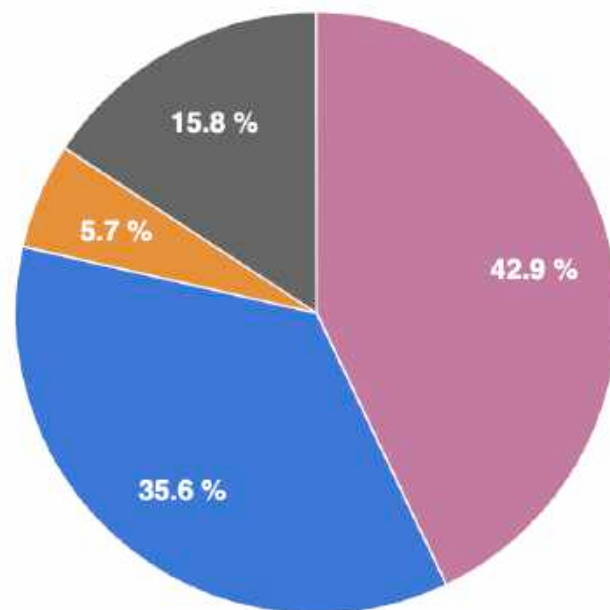
全体

■ 増加した ■ 変わらない ■ 軽減した ■ 覚えていない ■ 無回答



保険診療で受診した患者

■ 増加した ■ 変わらない ■ 軽減した ■ 覚えていない ■ 無回答



ii オンライン診療で保険診療を受けた患者の負担費用は1001円～1500が最多

Q18. 今回のオンライン診療で、医療機関（クリニック・病院）に支払った金額はいくらでしたか？（単一選択）
* Q17で薬が出なかったと回答した人以外に質問。Q7で直近の受診形態を「保険診療」と回答した人に絞り集計。

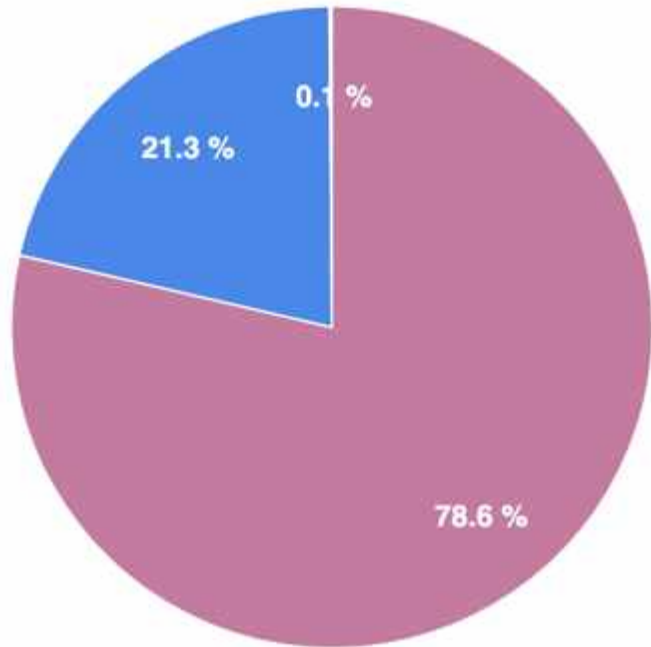


iii 以前も受診した医療機関をオンラインで受診した患者が8割近くを占め、3月以内にも同じ症状で受診をしたことがある患者が73.7%であった

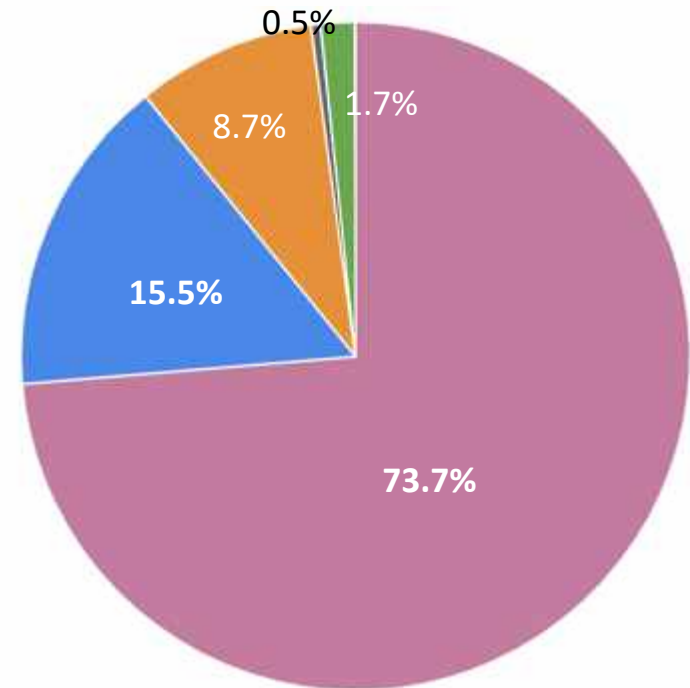
Q8.今回オンラインで受診された医療機関に、以前もかかったことがありますか？(単一選択)

[Q8=「はい」の人のみに表示]
Q9.以前に受診した際も、同じ症状でしたか？(単一選択)

はい 21.3% いいえ 0.1% 覚えていない 78.6% 無回答



3ヶ月以内に同じ症状で受診したことがある 3ヶ月以上前だが同じ症状で受診したことがある
今回の症状で受診したのは初めて 覚えていない その他 無回答

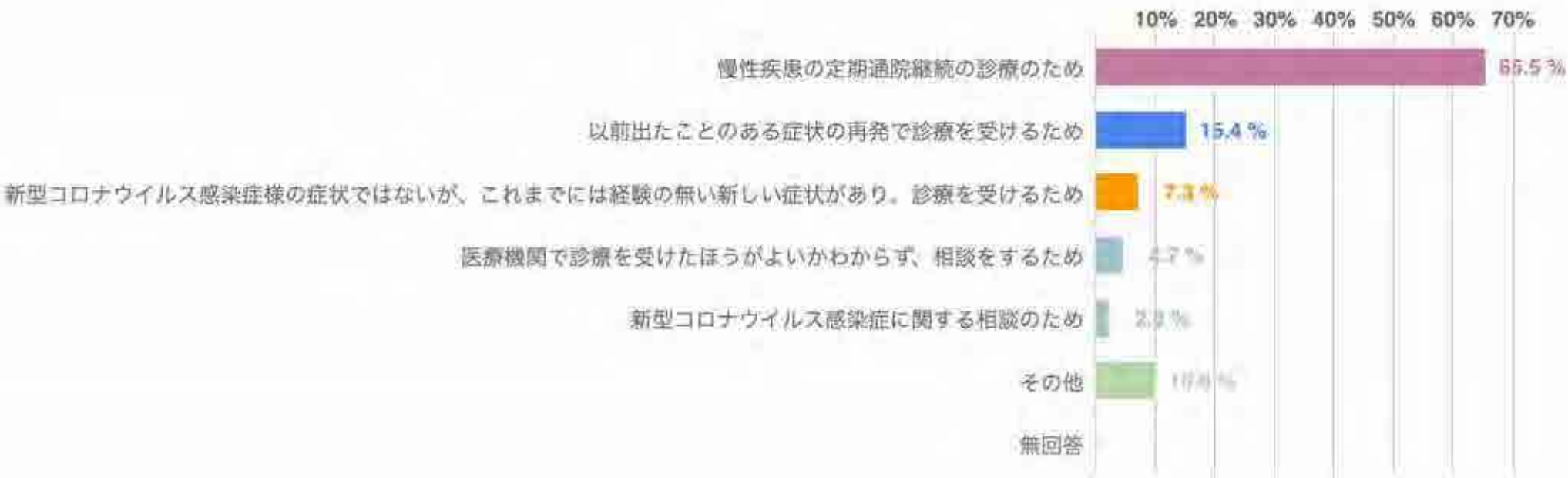


(n=837)

(n=658)

iii オンライン診療の用途として、慢性疾患の定期通院継続のためと回答した患者が全体のおよそ2/3を占めた

Q12. 今回、どのような用途でオンライン診療を利用されたのか教えてください。（複数選択）



(n=837)

今後、オンライン診療の普及を真に目指す上では、診療報酬上の対面診療同等の評価、対象疾患の制限を撤廃することが必要

2020年4月の事務連絡後の状況

提言

診療報酬

i

対象疾患の制約

- 2020年4月以降、従来のオンライン診療料の対象外疾患の割合が2/3ほどに
- アレルギー性鼻炎等の耳鼻科疾患、湿疹等の皮膚科疾患、その他小児科疾患、うつ病等の精神科疾患、月経困難症等の婦人科疾患

- 対象疾患以外の領域での広いニーズが見られており、引き続き対象疾患制限は撤廃すべき

ii

収益性の低さ

- 患者向けの調査でも、オンライン診療による費用増が最大の問題として挙げられている
- 医師向けの調査で、オンライン診療実施に当たり診療報酬が課題と考える医師が最も多い

- オンライン診療時の管理料を診療報酬上、対面診療時と比べて同等水準に評価することが必要

iii

厳格な実施要件

- 診療計画策定等の実施要件は不要
- 初診容認以降のオンライン診療のうち、オンライン初診料の算定は25%程度

- 診療に当たって諸々の実施要件を撤廃すべき
- オンライン初診は安全性を担保して実施する

iv

服薬指導

- 処方箋授受の複雑さが、対面服薬指導と比べた際の最大の課題
- 制度上は、オンライン診療以外の患者でのオンライン服薬指導が望まれている

- 電子処方箋を推進しつつ、普及までは特例措置を維持
- 対面診療後のオンライン服薬指導も可能に

オンライン診療・服薬指導の普及促進に向けた提言

- オンライン診療を真に普及させるためには、診療報酬を対面診療と同等水準で評価すること、対象疾患の制限を外すことが必要
- 診療報酬については、期中改定含め遅くとも次回改定までにオンライン診療時の管理料を対面診療時と同等水準に算定できるように見直すべき
- オンライン診療の対象疾患が限定されぬよう、オンライン診療料が算定できる疾患の制限を撤廃すべき
- 服薬指導については、対面診療後にオンライン服薬指導を可能とすること、電子処方箋の実運用での普及が求められる

Thank You!

**FOR ALL TO LIVE OUT
THEIR LIVES WITH DIGNITY**

参考資料

時限的措置以前にオンライン診療が使われてこなかったのは、対象疾患の制約や診療報酬の低さ、服薬指導の対面原則等が原因

オンライン診療の保険診療における制度上の規定と臨床現場への影響

制度上の規定

臨床現場への影響

診療報酬

i

対象疾患の制約

- 定められた管理料を算定している患者のみが対象となるため、保険診療で活用できる
対象疾患が少ない

- 診療報酬改定前には活用されていた皮膚科・精神科といった診療領域で活用できなかった

ii

収益性の低さ

- 対面診療よりも算定できる点数が100点（=1000円）以上減少。
オンライン診療を実施すると
収益性が下がる

- オンライン診療を実施することで、IT機器設定や診療計画書作成など、負担が増えるが対面診療に比べて収益性が下がる

iii

厳格な実施要件

- 診療計画の策定が必要
- 初診は対面での診療が必須

- 体制構築のハードルが高い

服薬指導

- 院外処方の場合、薬局には対面で行かなければならない
- 調剤には、処方箋の原本が必要

- オンラインで診療しても、薬を薬局へ取りに行く必要があり、患者負担が大きかった

新型コロナウイルス感染症を踏まえた一連の事務連絡により、オンライン診療が活用できる場面は広がった

2020年の一連の事務連絡による変更点

事務連絡以前

事務連絡以後

診療報酬

i

対象疾患の制約

- 定められた管理料を算定している患者のみが対象となるため、保険診療で活用できる
対象疾患が少ない

- 対象疾患の限定なくオンライン診療を行うことが可能に

ii

収益性の低さ

- 対面診療よりも算定できる点数が100点（=1000円）以上減少。
オンライン診療を実施すると
収益性が下がる

- 初診については対面と比べ約7割程度の点数が算定可能に（初診料。対面288点、オンライン214点）
- 再診については大きく変化なし

iii

厳格な実施要件

- 診療計画策定や、対象患者・算定回数等の条件が求められる
- 初診は対面での診療が必須

- 診療計画策定等の諸条件は不要
- 初診からオンライン診療が可能

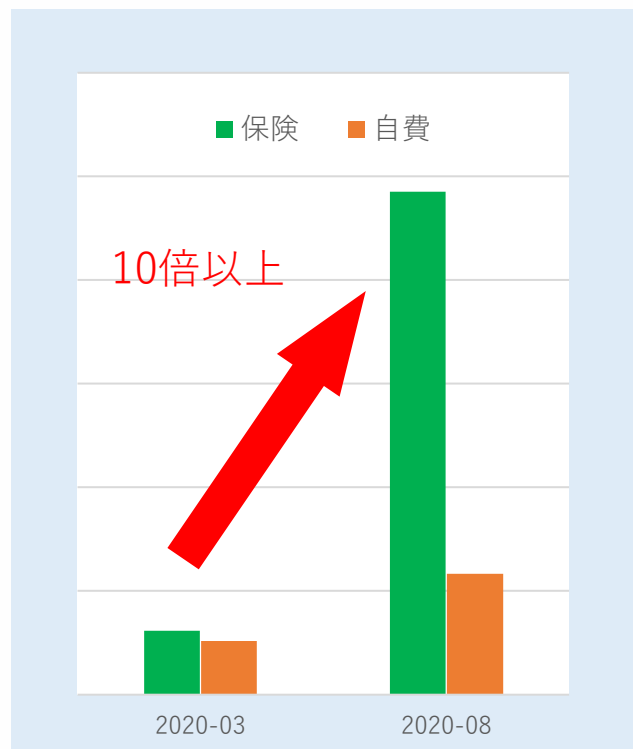
iv

服薬指導

- 院外処方の場合、薬局には対面で行かなければならない。
- 調剤には、処方箋の原本が必要

- 院外処方の場合も、オンラインで完結することが可能に
- 処方箋のFAXでも調剤可能

これらの制度・環境変化の影響を受け、オンライン診療の利用患者数は10倍以上に、導入する医療機関も倍以上に増えた

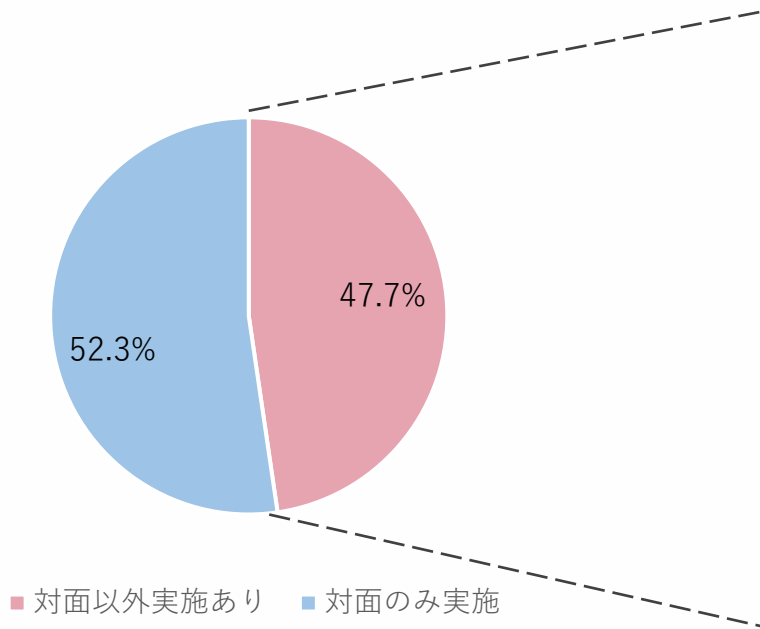


※2020年9月現在

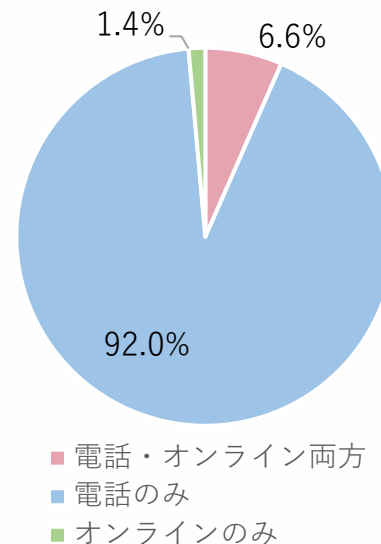
一方、オンライン診療を実施したのは非対面診療をした医師の1割弱に過ぎず、その10倍近い9割以上の医師が電話診療のみを行っていた

Q:2020年4月～6月の3カ月間に、電話診療またはオンライン診療を実施しましたか。
なお、ここでの「電話診療」は「電話のみを用いた診療」を、「オンライン診療」は「ビデオ通話を用いた診療」として、ご回答ください。

2020年4月～6月の3ヶ月間に行った診療方法



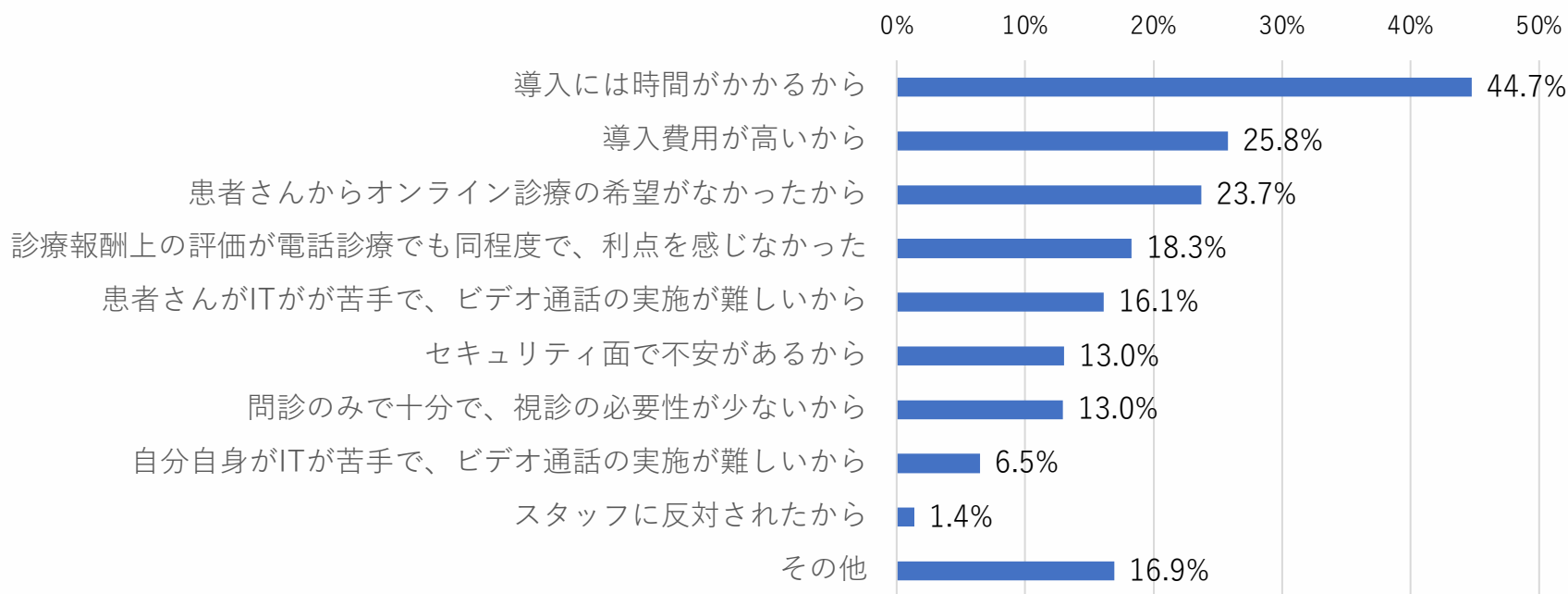
対面以外の診療も実施した医師の診療内訳



(n=5,000)

電話診療のみを実施した理由として、短期間でオンライン診療の体制を整えるための時間・費用が大きな課題であったと考えられる

Q: 先生が、オンライン診療は実施せず、電話診療のみを実施した理由をお教えてください。（複数選択）



(n=2,193)

* 「その他」の回答について：病院の方針、病院に設備・準備がないといった理由が7-8割ほどを占めた

今後、オンライン診療の普及を真に目指す上では、診療報酬上の対面同等の評価、対象疾患の制限を撤廃することが必要

2020年4月の事務連絡後の状況

提言

診療報酬

i

対象疾患の制約

- 2020年4月以降、従来のオンライン診療料の対象外疾患の割合が2/3ほどに
- アレルギー性鼻炎等の耳鼻科疾患、湿疹等の皮膚科疾患、その他小児科疾患、うつ病等の精神科疾患、月経困難症等の婦人科疾患

- 対象疾患以外の領域での広いニーズが見られており、引き続き対象疾患制限は撤廃すべき

ii

収益性の低さ

- 医師向けの調査で、オンライン診療実施に当たり診療報酬が課題と考える医師が最も多い
- 患者向けの調査でも、オンライン診療による費用増が最大の問題として挙げられている

- オンライン診療を診療報酬上、対面診療と比べて十分に評価することが必要

iii

厳格な実施要件

- 診療計画策定等の実施要件は不要
- 初診容認以降のオンライン診療のうち、オンライン初診料の算定は25%程度

- 診療に当たって諸々の実施要件を撤廃すべき
- オンライン初診は安全性を担保して実施

iv

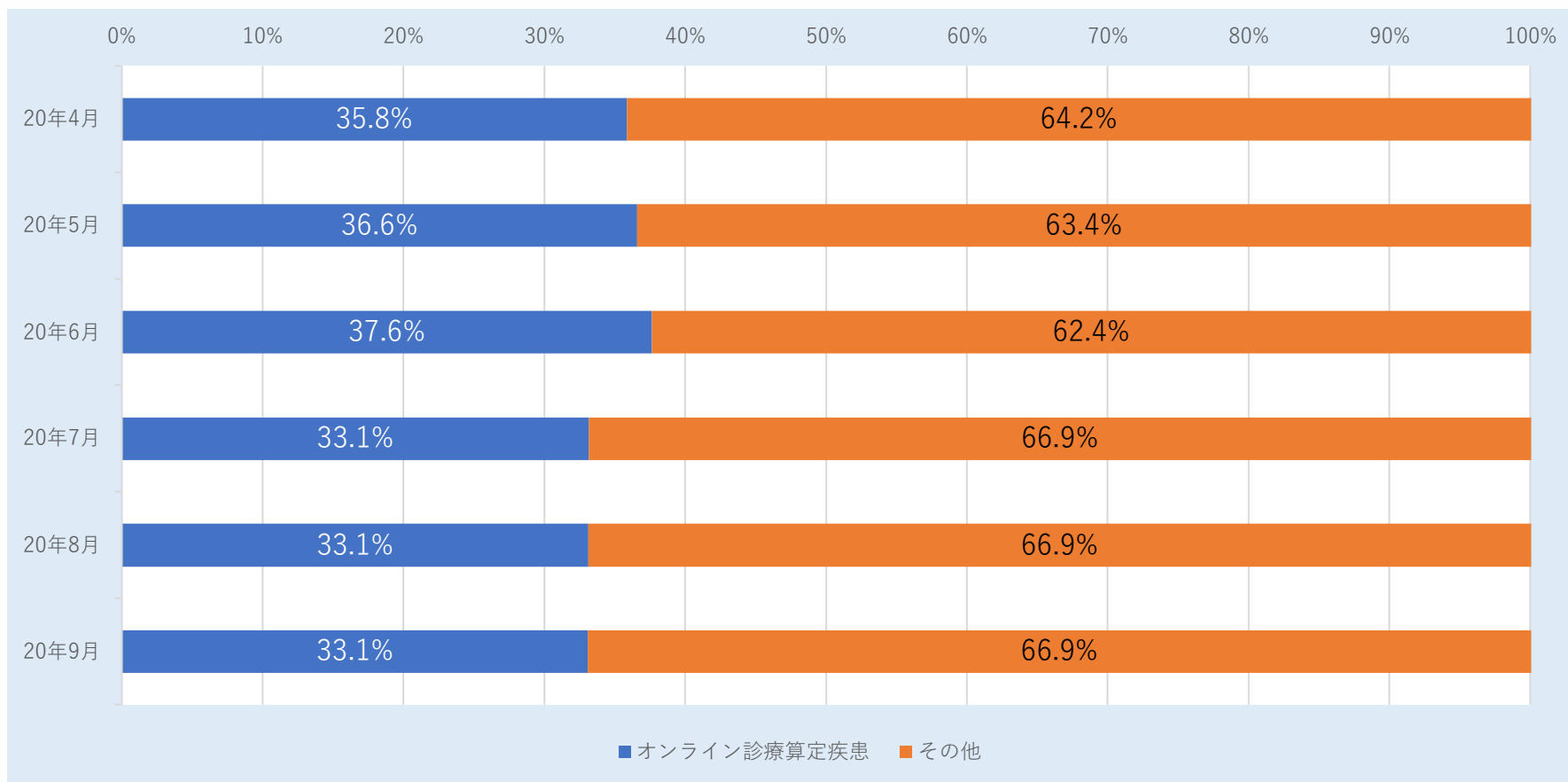
服薬指導

- 処方箋授受の複雑さが、対面服薬指導と比べた際の最大の課題
- 制度上は、オンライン診療以外の患者でのオンライン服薬指導が望まれている

- 電子処方箋を推進しつつ、普及までは特例措置を維持
- 対面診療後のオンライン服薬指導も可能に

i 実際にオンライン診療が活用された疾患として、オンライン診療料が算定できる疾患以外の疾患が約2/3を占めていた

オンライン診療が活用された疾患に占めるオンライン診療料が算定できる疾患の割合



i オンライン診療料の対象外の多くの疾患でオンライン診療は活用されており、対象疾患の制限は撤廃すべきと考えられる

事務連絡以降に活用されていた疾患

オンライン診療料の対象外の疾患

内科系疾患

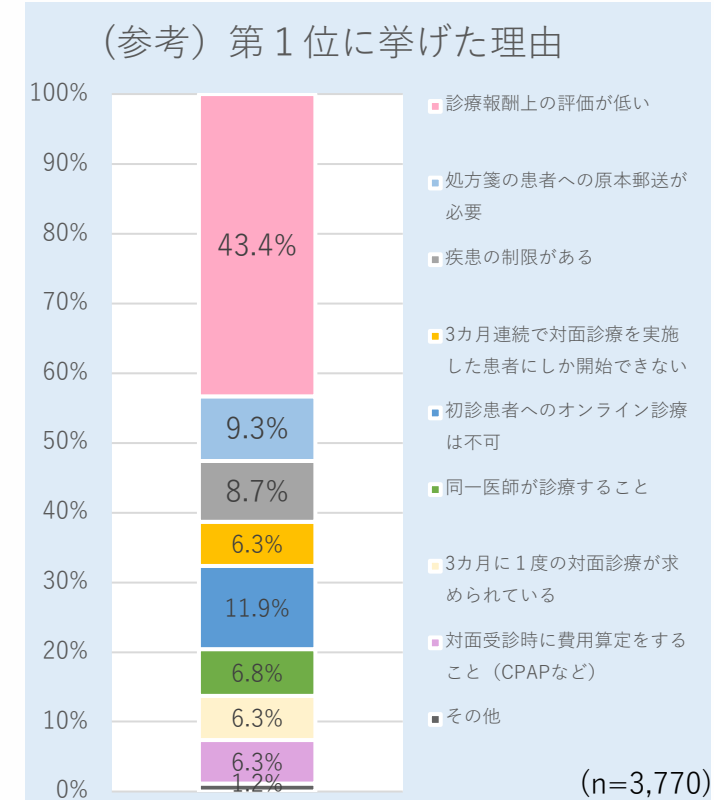
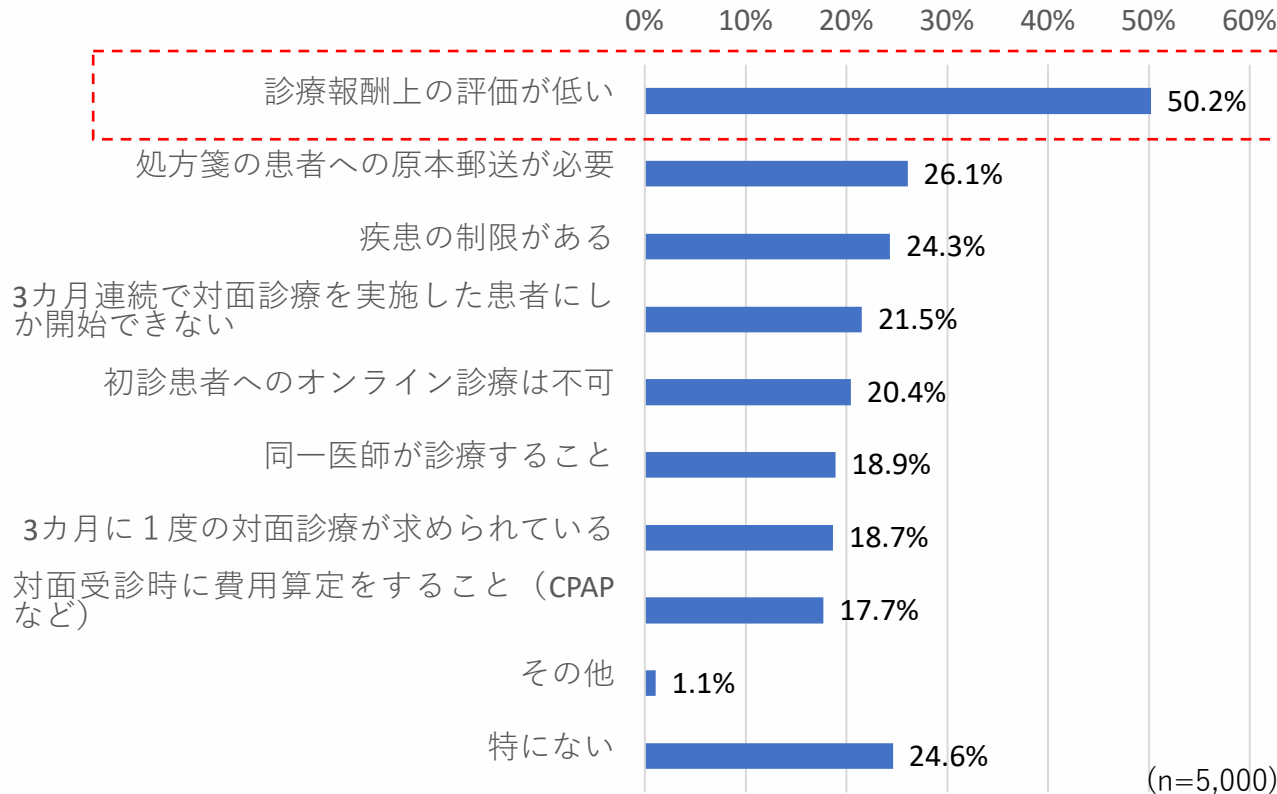
循環器	消化器	呼吸器	神経	代謝・内分泌	アレルギー・膠原病
高血圧症 慢性心不全	慢性胃炎 潰瘍性大腸炎 逆流性食道炎 IBS 便秘症	COPD 喘息 睡眠時無呼吸症候群	てんかん 認知症 頭痛 めまい	糖尿病 脂質異常症 甲状腺機能亢進/低下症 高尿酸血症	アレルギー性鼻炎 花粉症

その他疾患

皮膚科	泌尿器科	整形外科	精神科	婦人科	小児科
アトピー性皮膚炎 尋常性ざ瘡 蕁麻疹 白癬	過活動膀胱 前立腺肥大	骨粗鬆症 変形性膝・股関節症 関節リウマチ	パニック障害 強迫性障害 うつ病 不安障害 双極性障害 適応障害 不眠症	月経困難症 不妊治療 更年期障害	発達障害 夜尿症

ii 医師が考えるオンライン診療の現行制度に対する最大の課題は診療報酬の低さ

Q.先生が、必要な患者さんにオンライン診療を実施していくために、現行制度に関して見直してほしい事項があれば、全てご選択いただき、特に見直してほしい順に順位をつけてください。（複数選択可）



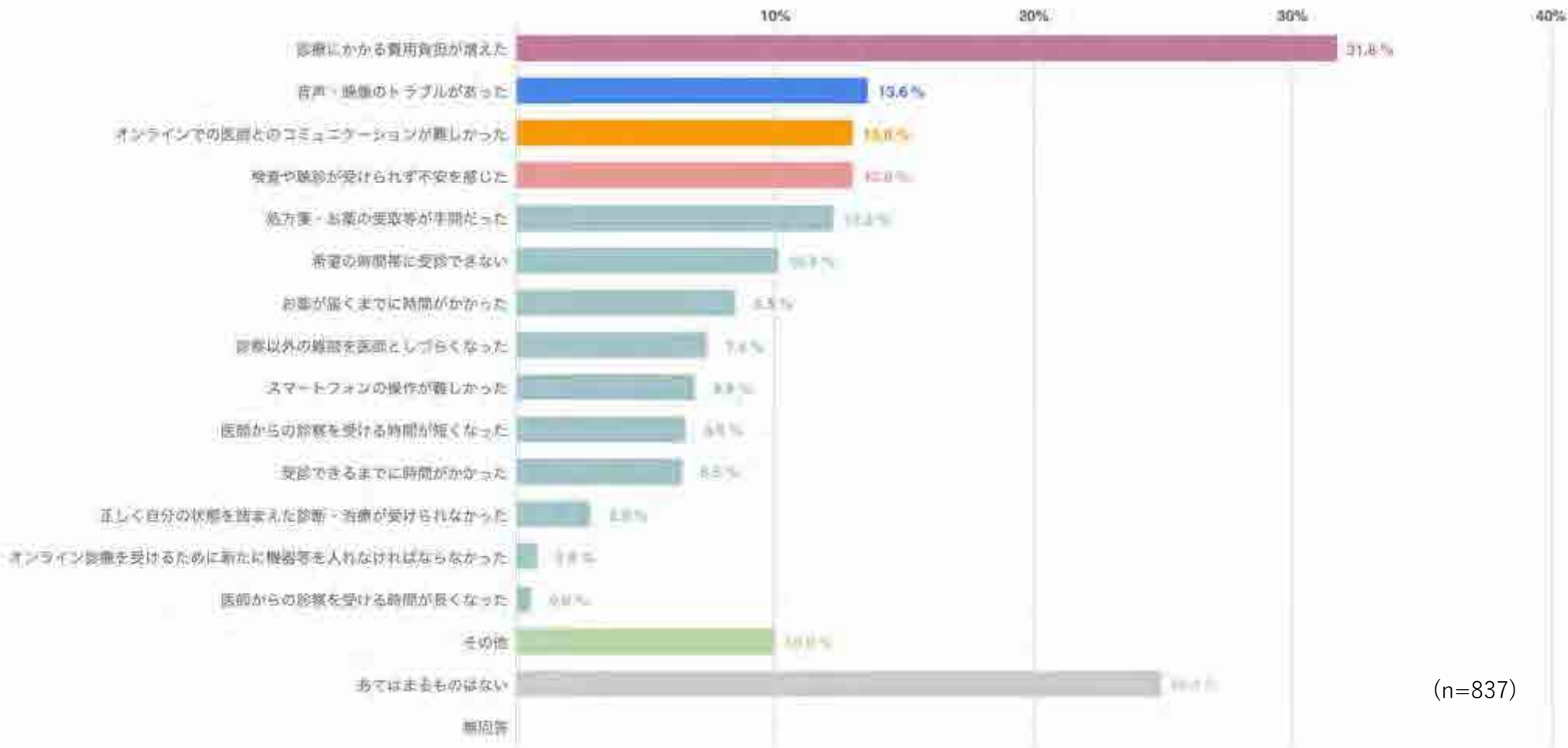
ii 例えば高血圧症では、対面診療とオンライン診療で、医療機関にとって患者1人あたり2,000円以上の収入の差が生じる

☐ p.13頁に他疾患の例

対象疾患例 高血圧症		対面診療	オンライン診療
保険 請求額	再診料	73点	--
	処方箋料	68点	68点
	外来管理加算	52点	--
	特定疾患療養管理料	225点	--
	特定疾患処方管理加算	65点	--
	オンライン診療料	--	71点
	オンライン医学管理料	--	100点
その他	サービス等の費用（税抜）	--	0円
診療報酬点数		483点	239点
クリニックへの収入		4,830円	2,390円

ii この差を埋めるための自己負担が患者に求められ、結果的に、患者側のオンライン診療の最大の課題は費用負担となっている

Q.対面診療と比較して感じた、オンライン診療のデメリットを教えてください。（上位5つまで/複数選択）



(n=837)

ii オンラインと対面の診療報酬の差の原因となる管理料を、同等の水準に調整すべき

点数名称	2020年4月 改定後の点数	
	対面	オンライン
オンライン医学管理料	—	撤廃
特定疾患療養管理料	225点	100点
小児科療養指導料	270点	100点
てんかん指導料	250点	100点
難病外来指導管理料	270点	100点
糖尿病透析予防指導管理料	350点	100点
地域包括診療料	1503/1560点	100点
認知症地域包括診療料	1515/1580点	100点
生活習慣病管理料	650~1280点	100点
在宅時医学総合管理料	580~5400点	100点
精神科在宅患者支援管理料	1248~3000点	100点
在宅自己注射指導管理料	650~1230点	100点

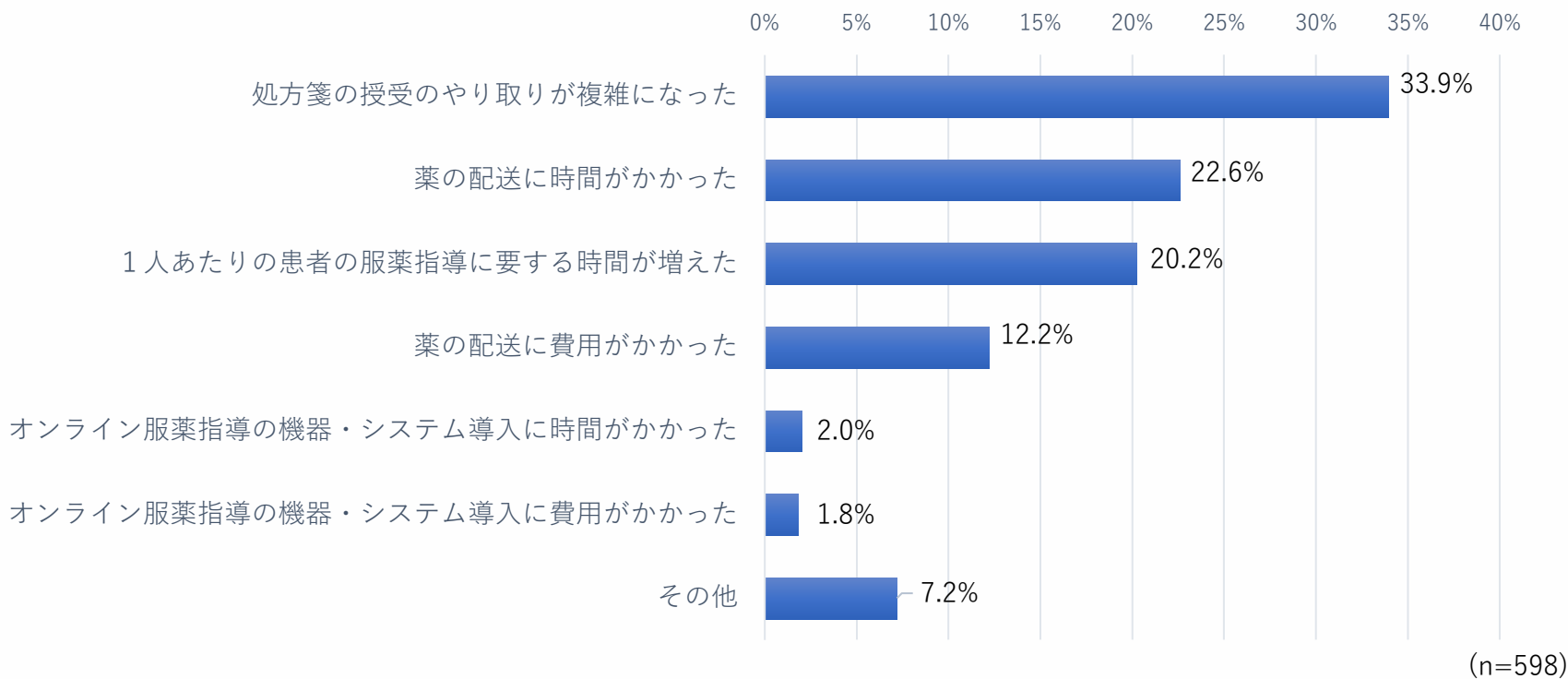
iii 事務連絡以降、電話等再診で認められている実施要件はオンライン診療料においても同様に見直すべき

	オンライン診療料	電話等による再診料
対象患者	直近の3月連続で対面診療を受診した患者に限定	制限なし
連続算定	3月以上連続しての算定は不可 (3月に1回は対面診療が必須)	制限なし
算定回数	月1回の算定に限定	制限なし
診察場所	保険診療所内での実施に限定	制限なし
医師	原則として同一医師に限定	制限なし
診療計画書	策定が必須	不要

iv

電話・オンライン服薬指導を実施した薬剤師は、処方箋授受の複雑さや、薬の配送に時間がかかることを問題と捉えている

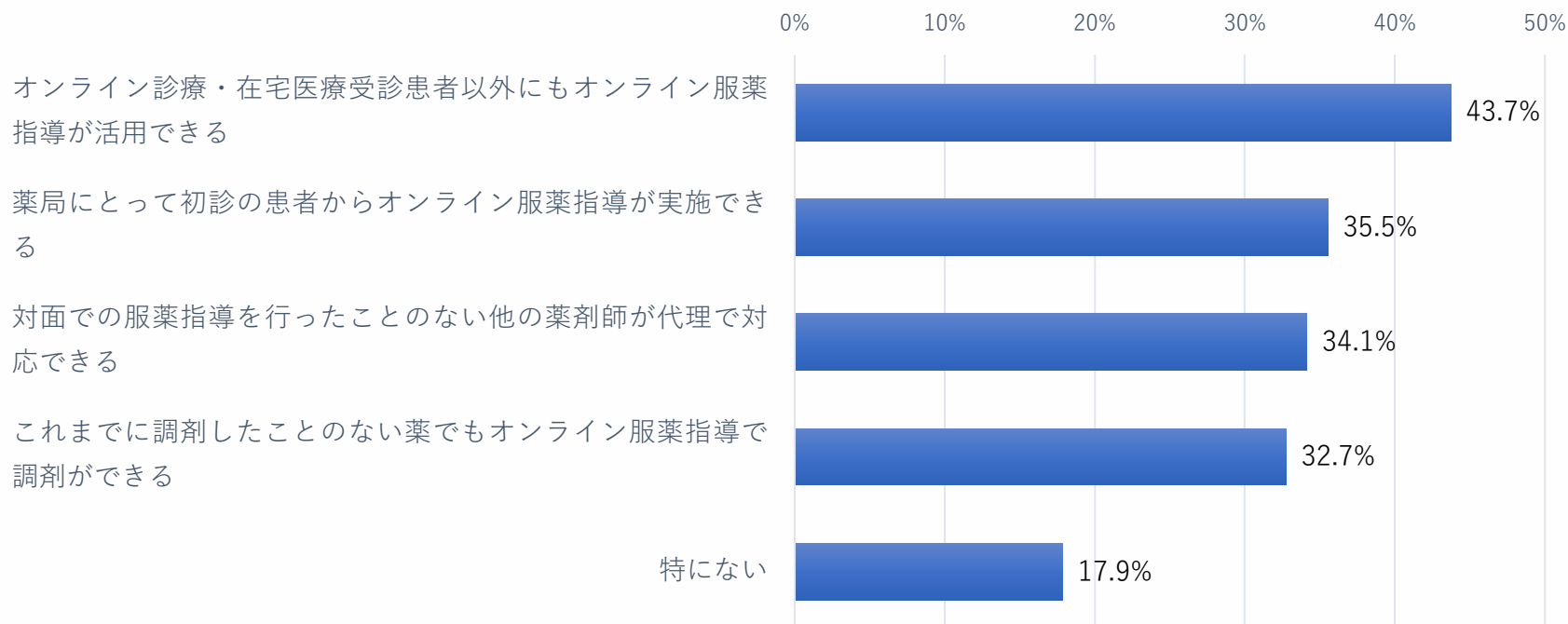
Q: 特例措置下で電話での服薬指導あるいはオンライン服薬指導を実施して、対面での服薬指導と比較して最も問題と感じたことを選びください。（単一選択）



iv

制度上の最大のハードルは、オンライン診療・在宅医療受診患者以外にもオンライン服薬指導を活用できるようにすること

Q: 9月1日以降の薬機法改正案を踏まえた場合に、オンライン服薬指導を適切に実施する観点から、制度要件の変更があると望ましい点があれば、お教えてください。（複数選択）

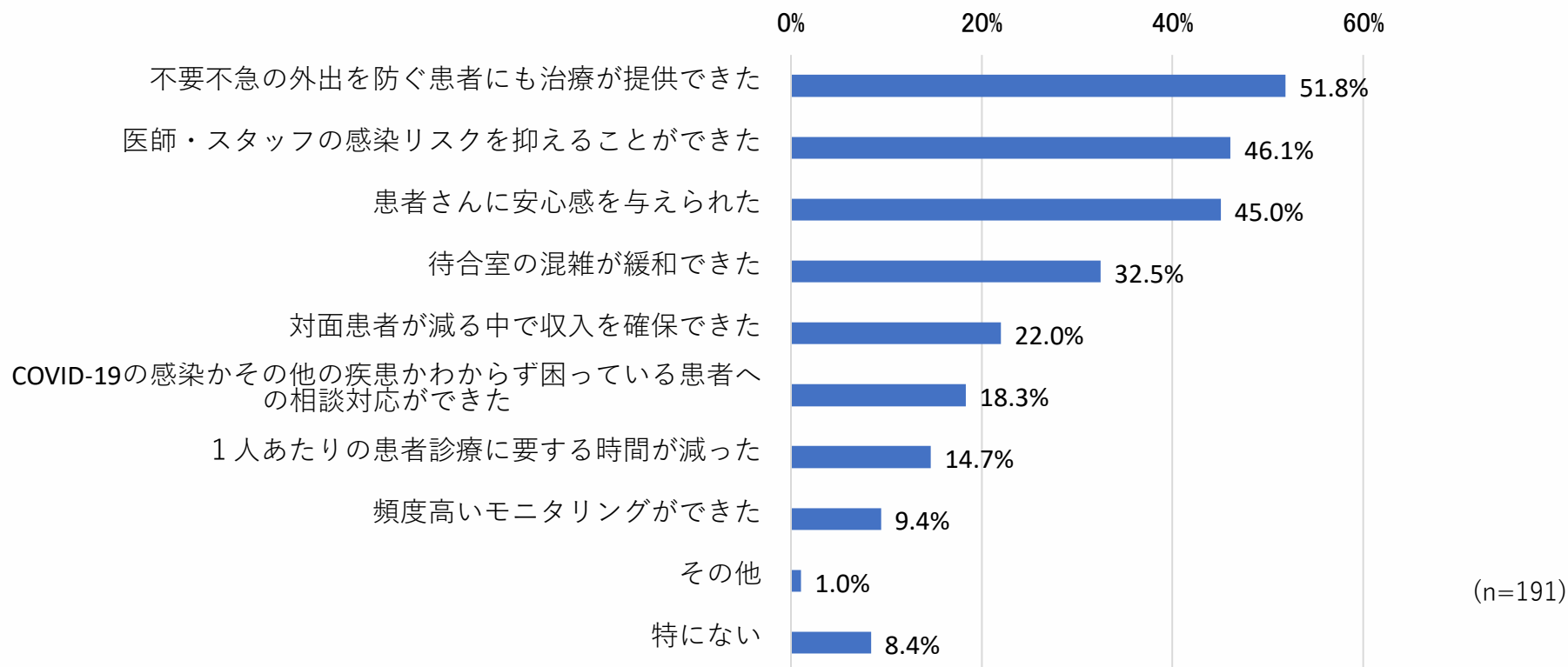


(n=1,500)

オンライン診療は感染症流行下で新たな価値を見出された

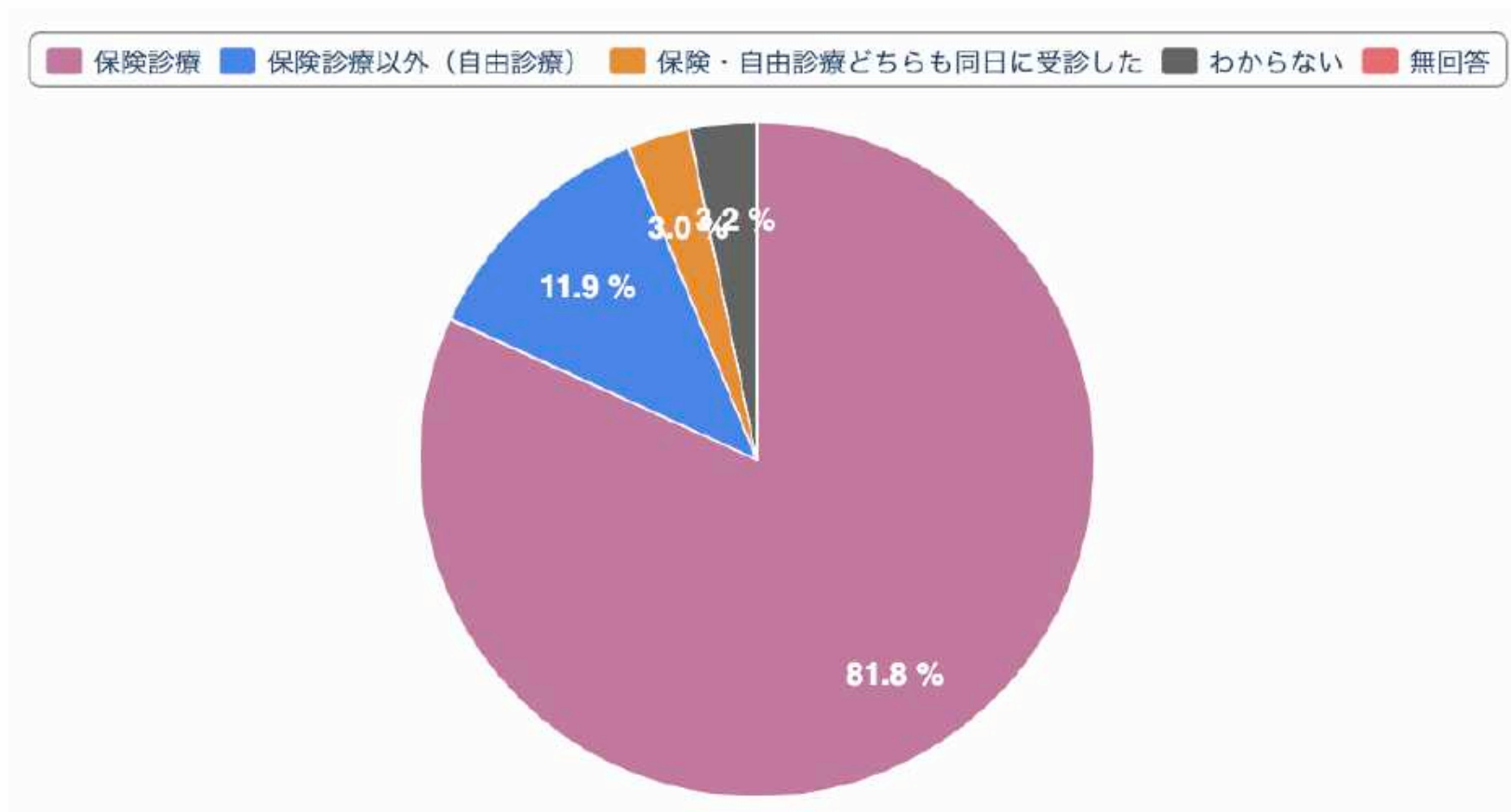
医師がオンライン診療の利点として感じたことは、不要不急の外出を防ぐ患者にも治療が提供できた（51.8%）、医師・スタッフの感染リスクを抑えることができた（46.1%）、患者さんに安心感を与えられた（45.0%）が上位3項目であった。オンライン診療の新たな価値として、感染拡大の対策や、外出しない中でもFace to Faceで繋がる安心感を医師が実感していることが示された。

Q34.先生が、特例措置下でオンライン診療を実施して利点に感じたことを全てお選びください。（複数選択）



オンライン診療の診療形態

Q7.ここからは、直近のオンライン診療について教えてください。受診した診療は保険診療でしたか？保険診療以外（自由診療）でしたか？（単一選択）

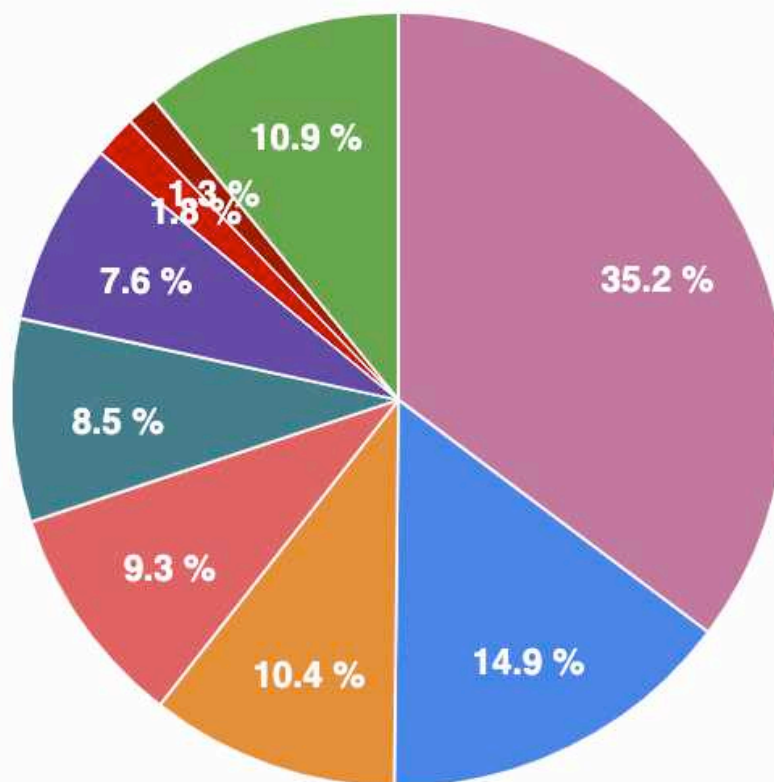


(n=837)

オンライン診療の診療科目

Q11.今回受診された医療機関の診療科目について教えてください。（単一選択）

内科 産婦人科 小児科 皮膚科 耳鼻科 精神科・心療内科 泌尿器科 眼科 その他 無回答



(n=837)